

財政特集

松山市の家計簿は？

平成28年度
財政事情の公表

一人でも多くの人が「笑顔」で「幸せ」を
実感できる「まち」を目指して

平成28年度に本市が使ったお金は、一般会計1840億2916万円、特別会計1509億8207万円、総額3350億1736万円となりました。一般会計の歳入・歳出総額はともに過去最大の平成27年度に次ぐ規模となり、実質単年度収支は、地方交付税や臨時財政対策債、地方消費税交付金などが前年度に比べ大幅に減収する中、国体の開催準備や子育て環境の充実などに財源対策を講じた結果、18億3706万円の赤字となりましたが、実質収支は22億8388万円となり、59年連続で黒字を確保しました。今後とも厳しい財政運営が予想されますが、健全な財政状況を維持しつつ、皆さんのご理解を得ながら、一人でも多くの人が「笑顔」で「幸せ」を実感できる「まち」を目指します。

一般会計

最終予算額は、2047億4216万円（対前年度比2・4割増）で、そのうち歳入決算額は1882億5997万円（同1・0割増）、歳出決算額は1840億2916万円（同0・3割減）となりました。

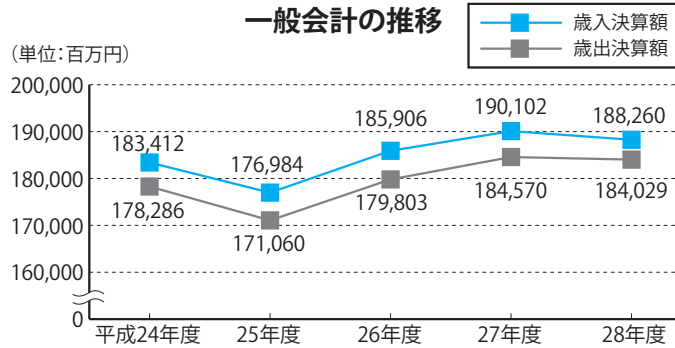
歳入

市税が、給与所得による納税義務者の増加などによる個人市民税の増加など

歳出

臨時福祉給付金の制度改正や保育施設運営費の給付などもあり、民生費が880億1201万円（同2・8割増）で全体の47・8割を占めています。次いで、

一般会計の推移



土木費が187億8580万円（同5・4割増）、総務費が168億1061万円（同4・4割増）となりました。

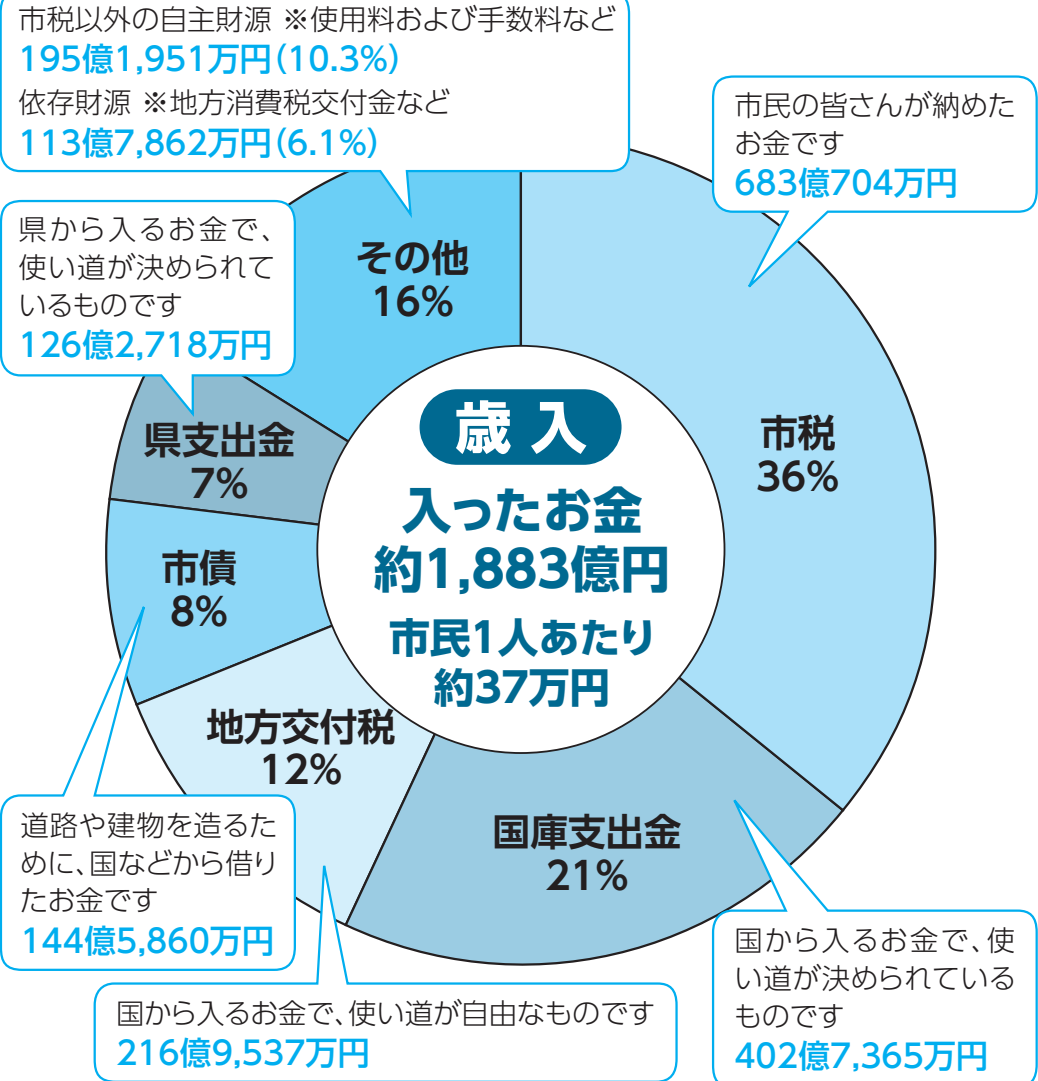
特別会計

国民健康保険会計など13事業の歳入決算額は1563億979万円（同1・9割増）、歳出決算額は1509億8207万円（同0・7割増）となりました。

市債残高

一般・特別会計・企業会計を合わせて3232億4297万円（同0・8割減）となり、前年度より25億8273万円減少し、11年連続の減少となりました。

平成28年度 一般会計決算



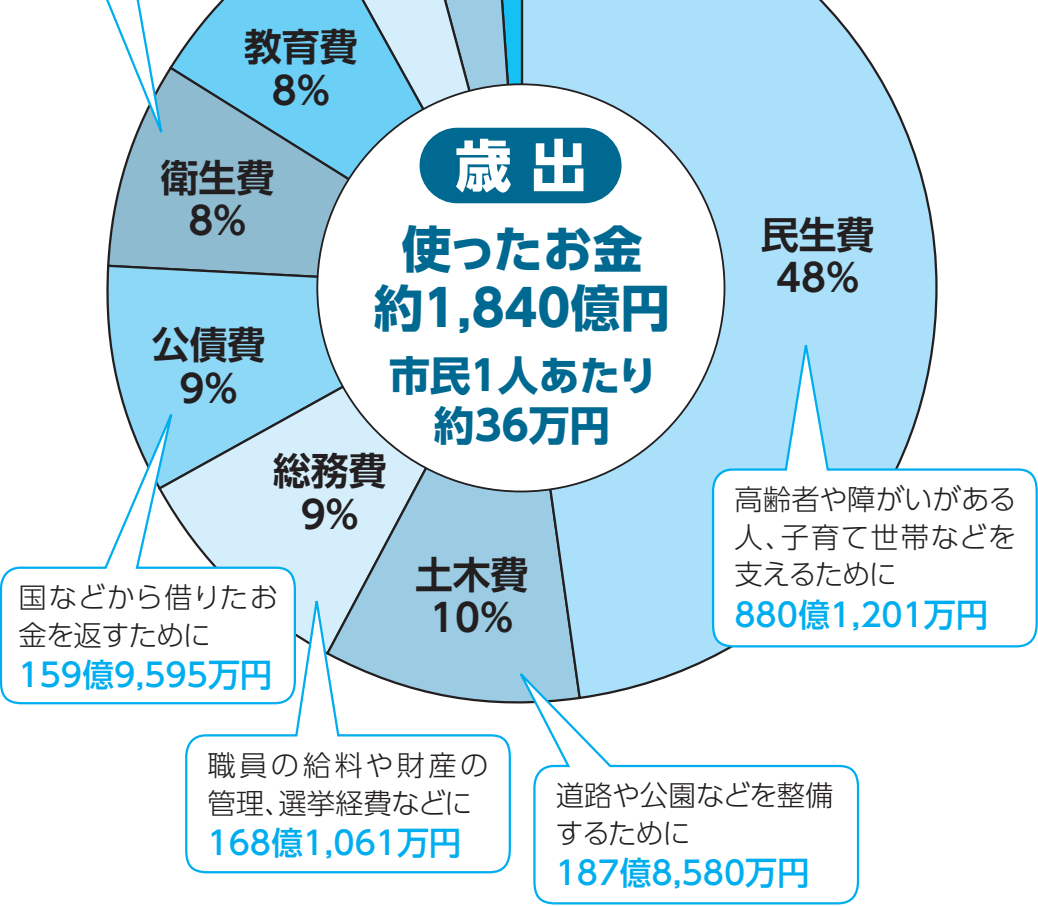
商工費・農林水産業費4%

商業や農業を盛んにするために
76億9,246万円

火災予防や消防活動、急病人の救助や災害対策のために
50億7,902万円

学校を整備したりスポーツや文化などを盛んにするために
146億404万円

病気を予防したり、ごみ処理や環境を守ったりするために
158億6,510万円



高齢者や障がいがある人、子育て世帯などを支えるために
880億1,201万円

職員の給料や財産の管理、選挙経費などに
168億1,061万円

国などから借りたお金を返すために
159億9,595万円

家計にたとえると…年収300万円(月収25万円)の家計

入ったお金【歳入】	1カ月(円)	1年間(実際)
給料【市税、使用料など】	250,000	878億2,655万円
親から支援【国、県支出金など】	244,700	859億7,482万円
借金【市債など】	41,200	144億5,860万円
合計	535,900	1,882億5,997万円

※自主財源とは・・・地方公共団体が自主的に収入することができるもの
※依存財源とは・・・国や県により定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入

使ったお金【歳出】	1カ月(円)	1年間(実際)
家族の医療費など【扶助費】	171,800	603億7,281万円
食費【人件費】	72,900	256億2,914万円
親戚への援助など【補助費・出資金・貸付金】	49,500	173億8,172万円
自宅の修繕・改築【普通建設費・維持補修費など】	57,000	200億1,965万円
光熱水費など【物件費】	68,100	239億2,078万円
借金の返済【公債費】	45,500	159億9,492万円
別に住む家族への仕送り【繰出金】	53,300	187億2,021万円
預金など【積立金】	5,700	19億8,993万円
合計	523,800	1,840億2,916万円

※歳出金額は、支出の性質を家計に例えて分類しています
※扶助費とは・・・社会保障の一環として、高齢者、児童、生活困窮者などに対して行っているさまざまな援助に要する経費
※補助費とは・・・各種団体への助成金や負担金などの経費
※繰出金とは・・・特別会計などが安定した運営を行うために、一般会計から支出する経費

まとめ	1カ月(円)	1年間(実際)
収入から支出を引いた額【形式収支】	12,100	42億3,081万円
次の年に使い道を決めている額【翌年度に繰り越すべき財源】	5,500	19億4,693万円
実質的な黒字の額【実質収支】	6,500	22億8,388万円

貯金・借金の残高(年度末現在)	家計換算(円)	実際の額
貯金【基金の現在高】	1,657,000	485億254万円
借金【市債の残高】	6,023,000	1,763億3,513万円

※数字は、端数処理しています

こんな事業に使いました

- 【主な事業】
- 子育て・教育環境の充実や少子化対策
小中学校エアカン整備、余土・味生地区子ども・子育て複合施設や波妻レクリエーション広場の整備、妊娠・出産支援など
- 福祉サービスの充実
松山市北部福祉交流の家の建設など
- 移住定住対策の推進
興居島体験滞在型交流施設「ハイムインゼルごぞしま」の整備など
- 市民の安全・安心の確保
小中学校校舎の耐震化の完了、木造住宅耐震診断の事業費拡充、備蓄物資の新規・増量配備、大学と連携した地域防災リーダー育成、365日24時間救急医療体制のさらなる充実など
- 地域経済の活性化
J R松山駅周辺や外環状道路整備、新たな住宅リフォーム補助、女性の在宅就労支援や中小企業支援強化、「瀬戸内・松山」構想の推進や観光客誘致、道後温泉別館 飛鳥乃湯泉建設、ゆるキャラ®グランプリや国体リハーサル大会、農林水産物ブランドのトップセールス、道路・下水排水路・農道などの整備など



7月22日にオープンした「波妻の鼻わくわくランド」



9月26日にオープンする「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」



水防工法訓練に参加する大学生防災リーダークラブ

いろいろなことに使われているのね



財政用語解説

◆実質収支

形式収支(歳入総額から歳出総額を引いた数)から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した額。当該年度に使うべき収入と支出の実質的な差額を見るために用いる。

◆実質単年度収支

単年度収支(当該年度の実質収支)から前年度の実質収支を差し引いた、実質収支を差し引いた、当該年度実質収支の増減額に、実質的な黒字要素(財政調整基金積立額)を加え、地方債の繰上償還額や地方債の繰上償還額を加え、赤字要素(財政調整基金)を差し引いたもので、当該年度の実質的な収支を把握するために用いる。

◆市債(地方債)

自治体が資金調達のために借り入れるお金のこと。

◆基金

自治体が特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立て運用するもの。

◆地方交付税

国税のうち、所得税法人税、酒税、消費税の一定割合および地方法人税の全額を、地方自治体の税収の地域的な不均衡を補うために国から交付される地方自治体固有の財源で、使い道に制限はない。

平成28年度
公営企業の業務状況

公共下水道事業 2年連続で黒字を達成

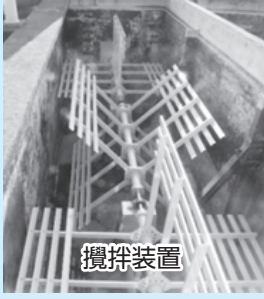
水道事業

水道事業は、夏場の水需要期に天候に恵まれたことなどにより給水量が増加して予定収益を確保することができ、単年度実質収支は11年連続の黒字となりました。公共下水道事業では、下水道整備により普及率が61・9割となりました。また、浸水対策として平成14年度から取り組んできた「重点10地区」の整備がすべて完了しました。

夏場の水需要期に天候に恵まれたことなどにより給水量が増加して予定収益を確保することができ、単年度実質収支は11年連続の黒字となりました。

主な事業として、基幹管路や救急医療機関までの重要な配水管の耐震化に取り組んだほか、市之井手浄水場の攪拌装置や傾斜板沈降装置など、古くなった設備の更新を行いました。

簡易水道を維持するための支出3億9900万円(資産維持費を含む)に対し、料金収入だけでは運営が難しいため、一般会計からの補助金2億705万円などにより収支のバランスを取りました。



攪拌装置

工業用水道事業

収入が6億8404万円、支出が6億8299万円(資産維持費を含む)で、単年度実質収支は7575万円の黒字となり、健全経営を維持しました。

公共下水道事業

収入は前年度に比べ3593万円多い144億7802万円、支出は前年度に比べ2億2613万円少ない13億7443万円となりました。下水道使用料は、普及拡大による使用量の増加などにより、前年度に比べ1億1099万円多い63億8424

万円となったことに加え、払利息の減少などにより、10億4782万円の純利益となりました。また、水洗化人口は前年度より30335人増加した29万4021人です。「経営健全化のためのガイドライン」で定めた8つの目標のうち2つの指標は数値目標を若干下回ったものの、残りの指標は全て目標を達成しており、経営の健全化は着実に進んでいます。

国(公)営経営管理課 ☎ 998・9846・9320454、下水道政策課 ☎ 9486533・9345862

国(公)営経営管理課 ☎ 998・9846・9320454、下水道政策課 ☎ 9486533・9345862